

What is MTB-O ?

1 . マウンテンバイクオリエンテーリングとは？

「オリエンテーリング」は多くの方がご存知でしょう。

小、中、高校の林間学校などで、地図とコンパスを持ってチェックポイントを回ってくる遊び、あれです。たいていの場合は、宝探し感覚でグループでのんびり自然を楽しむ遊びで、タイムレースではありませんね。

一方で、個人で真剣にタイムを競う競技的なオリエンテーリングもあり、日本でも多くの愛好者がいます。



MTB-O は、簡単に言ってしまうとマウンテンバイクに乗って行う競技オリエンテーリングです。日本ではまだ始まったばかりですがヨーロッパなどでは盛んに大会も開かれ、オリエンテーリングのひとつのスタイルとして定着しているようです。

すでに競技オリエンテーリングを愛好している人には、地図を読んで走る面白さに加えて、移動手段としてマウンテンバイクを使用することで、スピード感やバイクを操ることそのものの面白さといった、新鮮な感動を与えてくれるでしょう。

ナビゲーションテクニックにおける特徴としては、その圧倒的な移動速度が挙げられます。コントロール自体は道上に置かれ、一見ナビゲーションは容易に思われますが、そのスピードと、悪路を走行するということがナビゲーションを難しくします。競技としてはスキーオリエンテーリングに通じるものがあります。下りでは 40km/h オーバーも珍しくない MTB-O は、間違いなく最速のオリエンテーリングといえます。

マウンテンバイクをベースとしている人にも、マウンテンバイクで山を走るそのもののスリリングさに加え、地図を読んで目標地点を巡るゲーム的要素が加わった MTB-O はきっと新たな MTB の楽しみをもたらしてくれます。

始めのうちはなかなか思い通りには道をたどれないものですが、次第にバイクの能力を十分に生かした走りができるようになります。オリエンテーリングで使用する地図は非常に正確です。正確な地図で走ることは非常によいナビゲーションのトレーニングとなり、実際に山でツーリングする際にもその力は生きてきます。

2 . 日本と世界の競技環境は？

世界的には、1980 年代の終わりごろから、マウンテンバイクがポピュラーなアウトドアスポーツであった国々で行われるようになりました。1997 年にはすでに 12 の国で選手権が行われるようになり、その数は急速に増加しています。特にチェコ、イタリア、

オーストラリアといった国々が盛んで、毎週のようにどこかでレースが開かれています。

マウンテンバイクオリエンテーリングの世界選手権は2002年にフランスで第一回大会が開催されました。2年ごとに開催が決まっており、次回は2004年にオーストラリアで開催されます。これとは別に、毎年4~5戦くらいのポイントでチャンピオンを決定するワールドカップシリーズが毎年開催されています。

2002年フランス世界選手権、2003年のワールドカップチェコラウンドには日本からも選手団が派遣されました。日本での競技人口もまだまだ少なく、世界選手権出場もかなり現実的な目標となりうるのも魅力といえます。

日本では、2002年5月に富士山麓で初の本格的な大会が行われました。その後は2003年5月の菅平、10月の岩手など年に2、3回のペースで大会や練習会が行われています。大会情報などは、<http://ha8.seikyoku.ne.jp/home/Sou.Aikawa/>のMTBOのページにていち早く知ることができます。

3. どんなルールで行うの？

ルールは一般的なポイントオリエンテーリングとほぼ同様です。

MTBO特有のルールとしては、コントロールには必ずMTBと一緒に到達しなくてはならないこと(そのためチェックカード類はハンドルに取り付けてゴールするまで取り外せないようにします。)、地図上に表記された道以外の走行を禁止していることなどがあげられます。

ただし、競技が行われる場所の特徴によっては、MTBに乗車しなければ道を外れた林間を通過してもいいといった特別ルールが採用されることもあります。2003年のチェコのワールドカップでもそのルールが採用されており、今回の青山高原の大会でも採用される予定です。

4. どんな道具が必要なの？

・マウンテンバイク

使用されるマウンテンバイクは、クロスカントリー競技と同様です。世界選手権でも一般的に使用されていたのは、フロントサスペンションつきでリアはリジッドタイプのバイクでした。日本で購入するなら、5万円からのコースとなるでしょう。軽量で、ペダリングロスが少ないものであれば、フルサスバイクも有効です。地図読みを容易にする意味でもフロントにはサスが合ったほうが望ましいと思われます。

・ヘルメットなど

ヘルメットは必須装備で、これがないと出走することができません。また、グローブもほぼ必須の装備といえるでしょう。目を保護するサングラスも、必要に応じて使用するとよいでしょう。このあたりは、マウンテンバイクで山を走るときとまったく同様で

す。

・マップホルダー



オフロード走行中に手で地図を持って走ることは困難です。そこでマウンテンバイクオリエンテーリング特有の道具、マップホルダーが使われます。シルバなどのメーカーから市販品も出ていますが、日本ではちょっと入手が困難で、多くの人が自作品を使っておりそれぞれの人の工夫が現れるところです。世界選手権でも、さまざまな工夫を凝らしたマップホルダーを見ることができました。ほとんどのものに共通するのが、ハンドル部分に取り付けること、

回転機構がついていることでしょうか。

もちろん、マップの手持ち、首かけなどスタイルは自由です。

MTBO 専用マップホルダーは <http://www.orienteering.com/pass/> のサイトで購入が可能です。

・コンパス

マップを正確な向きに置くためには、コンパスが必要です。コンパスの保持方法は、大きく分けて手につける方法と、マップホルダーにつける方法があります。前者は常に同じ場所で見ることができ、後者はよりマップの近くで見ることができて、一長一短です。手につけるためには、リストタイプのコンパスでなくてはなりません。世界選手権の日本チームも使用したシルバ社 OMC スペクトラというコンパスは手の甲の部分につけることができ、針の止まりも非常に早く便利でした。ただ、世界選手権に出場している選手の中でも、コンパスを使用しない人はいます。



・マップ

マップは、フットオリエンテーリング用の地図か、またはマウンテンバイクオリエンテーリング専用に使われた地図を使用します。どちらも、一般的な地形図と比較すると

圧倒的に正確に作られています。



フットオリエンテーリング用の地図は、道を太さで分類して書き分けてあります。それに加えて、マウンテンバイクオリエンテーリング専用地図では、道の「走りやすさ」を3段階に分けて表示しており、太さを2段階、走行可能度を3段階の計6段階に表記しているのが特徴です。

・サイクルコンピュータ

人によっては、距離感を把握するためにサイクルコンピュータを積極的に使用する人もいます。その場合は、マップホルダーに隠れないようにアタッチメントバーやバーエンドの先につけるなどの工夫が必要になります。また、リセットが容易にできるタイプが使いやすいようです。